

大阪インターナショナルチャーチ

2008年 3月16日

ダニエル エルリック牧師

シリーズ : 始まり #9

題 : 罪に陥る

聖書の箇所 : 創世記 3:1-13

I. 初めに

おはようございます。皆さんがテレビのニュースを見たり、新聞を読んだりする時、こんなことを自分に問うてみたことがありますか。「どうして、こんなことになってしまったんだろう。」この世には、戦争、病気、離婚、幼児虐待、麻薬の常用、ホームレス、殺人、強姦、貧困、絶望、エイズなど、辛くて悲しい事がいろいろあります。そう、まだまだ挙げられますね。「一体なぜ、こんなにもひどいことに？ どうやって、そこから抜け出すことができるの？」これらの事は、本当に大切な質問です。私たちは、聖書の中に、それらに合う答えを見つけられるのです。



今日の聖書の箇所で、私たちは、いくつかの答えを見つけることになるでしょう。でも、初めに、先週どこを学んだか、思い出してみましよう。アダムとエバは、エデンの園に住み、すべてが素晴らしいものでした。二人は、全く自由です。ただ一つのことを除いては、**創世記 2:17** で、主はアダムにこう告げられます。「ただし、**善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。**」アダムは、この一つの命令に対して、従う責任がありました。それに、彼は、自分の妻であるエバにも、それに従うように教える責任がありました。数週間前、私たちは、どのようにしてサタンが悪魔になってしまったかについて話し合いました。サタンは、かつて大変美しい天使だったのです。ところが、高慢の思いが、サタンの心に入り込み、神に背いてしまいました。ヨハネの黙示録 **12:9** で、こう説明しています。「この巨大な竜、年を経た蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれるもの、全人類を惑わす者は、投げ落とされた。地上に投げ落とされたのである。その使いたちも、もろともに投げ落とされた。」いつサタン投げ落とされたのか、確かではありませんが、神が地を創造された後、また創世記3章の前だと思われまます。それで、アダムとエバは、エデンの美しい園に住んでいたのですが、そのとき、悪魔も地に来ていたのです。これらのことを、心に留めて、さあ、創世記 3:1-6 を見ていきましょう。

II. 聖書朗読 #1 : 創世記 3:1-6 (新共同訳)

(1) 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」(2) 女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。」(3) でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」(4) 蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。(5) それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」(6) 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。

III. 教え#1 :

1808年、ウィリアム・ブレイクは、このような誘惑のシーンを絵に描きました。

アダムとエバは、何をしているのでしょうか。絵からは、はっきり分かりませんね。試練がやってきた時、二人は、神に従いませんでした。私たちはどうでしょう。



誘惑が来るとき、どうしますか。残念ながら、私たちも罪に陥ってしまうことが、本当によくあります。悪魔は、エバの前に蛇の姿で現れましたが、悪魔は、私たちの前にも、いろいろな形で、やって来ることができるのです。そして、私たちは、神の真理の代わりに、悪魔の嘘を信じてしまうことが、あまりにも多くあります。

聖書のある学者は、誘惑とここで陥った罪を比喩的で象徴的な話であると理解します。全ての人々が、どのように罪に陥ってしまったか、つまり、それはアダムとエバから始まっているのだと、教えています。しかし他の学者は、この話を完全に文字通りに捉えています。どちらにしても、創世記3章は、その質問に対して答えを与えています。「どうして、こんなひどいことに、なってしまったんだろう。」この失われた世界でのあらゆる痛み、悲しみ、病気、そして死は、アダムとエバの罪から始まりました。



ところで皆さん、私は、タイでこんなジョークを教えてもらいました。すてきな中国系アメリカ人ミスター・ルーの話です。「もし、アダムとエバが、中国人だったら、こんな苦労はなかったんだよ。」「どうして?」「どうしてって、アダムとエバが中国人なら、蛇を食べてしまうからさ。」私は、このジョークが好きです。このようなユーモアのセンスを持つことは、私たちにとって、素晴らしいことです。けれども、罪は本当に深刻なことです。ですから、私たちは誘惑の過程を理解しなければなりません。それで、私たちは効果的に食い止めていくことができるのです。私たちには、蛇を食べるような選択の自由はありませんが、悪魔の策略に陥るのをどのようにして避けるかについて、学ぶことができます。

snake	\$ 5.50
kangaroo	\$ 6.00
ostrich	\$ 6.00
crocodile	\$ 5.50
sea food	\$ 6.00
(shrimps, squid, fish)	
chicken pork & beef	\$ 5.00
bbq degustation	\$ 6.00



ここで、誘惑の過程をよく見てみましょう。創世記 3:1 です。「主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。『園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。』」ここで、悪魔は、神の言葉に対して、疑いをもちこんでいます。悪魔は、こう聞いています。「神は、言われたのか。」それから、悪魔は、神が決して言われなかったようなことを言います。こうして悪魔は、神が言われたことに関して、疑いと混乱をもたらそうとするのです。

創世記 3:2-3 です。「女は蛇に答えた。『わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。』」エバは、悪魔が神の言われたことを間違えて伝えていると分かり、それを正しくしようとします。けれども、ここでエバは「触れてもいけない」と付け加えてしまうのです。これは、神が言われなかった言葉です。私たちも、神の言葉を知る必要があります。そして、勝手に神の言葉に付け加えたり、取り除いたりしないように気を付けなければなりません。なぜなら、それは、悪魔に機会を与えてしまうことになるからです。エバは、神の言葉に付け加えました。それで、蛇との会話に入り込んでしまったのです。それをしてはいけません。悪魔があなたを誘惑しようとしてやってくる時、悪魔とおしゃべりしてはいけません。悪魔は、狡猾で、すぐに悪賢い言葉で、あなたを罠にはめてしまうでしょう。

創世記 3:4 に、こうあります。「蛇は女に言った。『決して死ぬことはない。』」ここで、悪魔は、神を嘘つきと呼んでいます。悪魔は、神が与えてくださった広範囲にわたる十分な自由を無視し、禁止なされたことだけに焦点を置き、神の言葉に対して直に反論します。でも、誰が本当の嘘つき? もちろん、悪魔です。創世記 3:5 です。『それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。』と悪魔は言っています。神を嘘つきと呼んだ後、悪魔は、神がアダムとエバから何か良いことを隠そうとしているんだと言って、二人にそれとなく、神の動機に疑いを持たせるのです。ここで、悪魔は、一部だけ真実を言っていることにも気付いてください。木から食べることは、アダムとエバが、なるほど善悪を知ることになります。でも、それは、良いことじゃありません。いや、それどころか、ひどく恐ろしいことなのです。聖書では、知るという

認識は、経験するということを含みます。エバは、悪魔から来る痛みや辛さを経験したいと思ったのでしょうか。もちろん、思わなかったでしょう。でも、エバは、悪魔にだまされてしまうのです。

ここで皆さんは、私が「大きい嘘」と呼んでいるものが、分かってくさるでしょう。悪魔は、こう言います。「神のように善悪を知るものとなる」と。悪魔は、この驚くほど大きい嘘を、様々な形に変えて、広げていくのです。多くの宗教では、皆さんが神、又は神のようなスーパーマンになれると教えています。無宗教の人々は神などいないと言います。ですから、何でも自分で決めることができると言うのです。世間の人々はこう言います。もし、本当に金持ちなら、本当に有名なら、本当に力があるなら、きっと幸せでしょう。けれども、それは、基本的に全て同じ嘘なのです。なぜなら、これらのすべての事において、嘘は自分のプライドに訴え、自分が「神のよう」になり、トップに立ちたいと言っていることに他ならないからです。毎日、私たちの心に、大きい嘘が浮かび、その嘘は、私たちが創造主であられる神を見捨てさせ、自分自身を神とするように働きかけるのです。しかし、創造主なる神は、御自分の栄光を他の者に分け合おうとは思われていません。大きい嘘に気を付けてください。命取りになってしまうのです。

創世記 3:6 「女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女が実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。」エバは、神の代わりに悪魔を信じました。そして、自分の注意を禁じられた果実に集中させたのです。エバがその実を食べ始めるのには、それほど長くはかかりませんでした。けれども、罪を犯した者は、自分だけが悪者と思いたくありません。そこで、エバは、アダムに少しその実を渡し、食べるようにとけしかけるのです。さて、どうなるのでしょうか。

聖書朗読 #2: 創世記 3:7-13 (新共同訳)

(7) 二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。(8) その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、(9) 主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」(10) 彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」(11) 神は言われた。「お前が裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」(12) アダムは答えた。「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」(13) 主なる神は女に向かって言われた。「何ということをしたのか。」女は答えた。「蛇がだましたので、食べてしまいました。」(13) 主なる神は女に向かって言われた。「何ということをしたのか。」女は答えた。「蛇がだましたので、食べてしまいました。」

IV. 教え #2

アダムとエバは、善悪の知識の木から、果実を取って食べてしまったのです。それで、二人は自分たちが裸であることに初めて気づき、恥ずかしくなりました。これは、二人が何も身に着けていないことを、ただ示しているのではなく、罪を犯してしまったことに対する二人の突然の自覚も示しています。彼らは、罪から来る痛みと罪悪感を経験することで、悪をますます知るようになっていきました。そこで、彼らは、急いで神から隠れ、恐ろしくなるのです。創世記 3:9 にこうあります。「主なる神はアダムを呼ばれた。『どこにいるのか。』」なぜ、神はこのような質問をなさったのでしょうか。神は、アダムとエバが、どこに隠れているか、明らかに御存じだったのに。けれども、神は、アダムとエバが理解することを望まれたので、あえて尋ねていらっしやるのです。二人は、どこにいるのでしょうか。そう、彼らは神からずっと離れ、神から隠れ、神を恐れ、特に罪にある死を恐れて潜んでいるのです。心地よい所にはありません。



二人は、うまく隠れることはできません。そこで、次に責任を他の者になすり付けて、自分た

ちの罪を隠そうとするのです。創世記 3:12-13 です。「アダムは答えた。『あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。』主なる神は女に向かって言われた。『何ということをしたのか。』女は答えた。『蛇がだましたので、食べてしまいました。』男は、自分の罪を女になすり付け、それにまた「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が」と言って、神にまで責任を持たせようとするのです。エバは、蛇の責任にしています。皆さんも、このようなことに覚えがないでしょうか。今まで、こんなことを聞かれたことはありませんか。「私の妻のせいなんですよ。」「神のせいですね。」「蛇が、私にさせたんだから。」これらには、何の罪の告白もないし、何の悔い改めもないことに気付いてください。人はみんな、何か悪いことが起こった事に対して、だれもこう言いません。「私が悪いのです。ごめんなさい。もう、こんなことは繰り返しませんから。」

罪は、私たちの心の清さを壊してしまいます。罪は、神との、人との関係をだめにしてしまいます。罪は、私たちの性格をくじいてしまいます。罪は、幸せを台無しにし、平安を奪ってしまうのです。罪は、私たちがもはや悔い改めが必要だと分からないように、見えなくしてしまうのです。神は、アダムとエバに、言われました。禁じられた実を食べると死んでしまうだろうと。アダムとエバは、食べたとたん死んでしまいましたか。はい、そうでしたね。その時、二人は、肉体的に死んでしまったわけではありません。その死は、後からやってきました。でも霊的には、すぐさま、死んでしまったのです。霊的な死は、私たちの神との交わりを失うという事。つまり、天の父から離れてしまうということなのです。

この人生で、私たちは多分、罪から完全に解放されることはないでしょう。けれども、私たちが、罪を阻止し、悪魔の攻撃から自分たちを守ることができる幾つかのステップがあります。罪に陥る話から、私たちはこれらのステップが分かります。それらは、誘惑から、自分を守ってくれるのです。

1. 学び： 御言葉を知る - 神が言われていること、言われていないことを知る
2. 信仰： 神の御言葉を信じる - 悪魔の嘘を信じないで、神を信じる
3. 愛： 神を愛し、神の愛を信じる - 神の動機を尋ねない。神が自分を愛される事を心に留める。
4. 分かち合い： 神について人々に伝える - これは、他の人々を祝福し、自分も神を忘れない。
5. 戦い： 悪魔を阻止する - 悪魔の言うことに耳を貸さない、神の御言葉に固く立つ。
6. 逃げる： 誘惑の所から離れる - 禁じられた実を見つめないで、逃げよう！
7. 祈り： 神に助けを求めよう - 神から、隠れないで。

もし、私たちが、これらのことをすれば、多くの罪から免れます。でも、私たちは、失われた世界に住み、しかも人間ですから、自分で一生懸命がんばっても、時々、罪に陥ってしまいます。じゃあ、どうすればいいのでしょうか。失敗してしまったら、どうやってそこから抜け出したらいいのでしょうか。

ここで、創世記 3:8 をよく見てみましょう。「その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、」アダムとエバは、神が歩いて来られる音が聞こえたのです。どうして、このようなことがあり得るのでしょうか。これに対して、一つだけの答えが考えられます。園の中を歩いていらっしやったのは、イエスだったにちがいません。多くの方は、イエスの話は、新約聖書から始まると考えます。しかし、イエスは、神の子であり永遠のお方、時間と空間に制限される方ではありません。イエスは、いつでも、どんな所へでも、思い通りに現れることができるお方です。聖書は、イエスが旧約の時代に何度も出現されたことを示していると思われまます。

アダムとエバが罪を犯した時、主なる神は、つまりそのお方はイエスですけど、園に入って来られました。二人は、イエスが歩いて来られる足音を聞いた時、自分たちが見えないようにしました。その結果、自分たちが陥っている窮地から抜け出す代わりに、もっと大きい窮地に入り込んでしまったのです。でも、ここで私は、皆さんに提案したいことがあります。皆さんが窮地に陥り、

問題を抱えているとき、イエスは、あなたをも又、探しに来てくださっていることも確かなのです。イエスが来てくださるとき、隠れたり逃げたりしないでください。イエスに駆け寄り、ひざまずき、そして罪を告白し、赦しを求めてください。そうすれば、イエスはあなたを赦し、大きい愛で、包んでくださいます。これが、どのようにして窮地から抜け出すかということです。隠れる代わりに、イエスに走り寄り、罪を告白してください。ヨハネの手紙一1：9にこうあります。「自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。」

V. まとめ

アダムとエバが、善悪の知識の木から食べてしまったその日、二人は、霊的に死んでしまったのです。神が彼らに与えてくださった霊的な命と、彼らが楽しんだ主との近い関係は、失われてしまいました。二人は罪の結果、死んだものとなりました。私たち全ては、みんな同じ境遇です。そして、ある人々は、いまだに罪に死んだものなのです。しかし、ここに解決があります。イエスの所に走り寄り、罪を告白してください。神の愛を信頼し、あなたの信仰をイエスと十字架上の成し遂げられた御業に置いてください。そうすれば、イエスは、あなたを助け起こし、新しい命をくださいます。イエスの元に走り、彼に信頼を置いてください。そうすれば、あなたを罪から救ってください。さあ、祈りましょう。



VI. 最後の祈り

ⁱ これに関して、もう少し知りたい方は、こちらをご覧ください。
<http://www.christiananswers.net/dictionary/theophany.html>